

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(東部中) 学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校長より丁寧な説明と意見を聞くことができ、方針について理解できた。
- 各委員が様々な立場や視点で意見を述べたり、話し合ったりすることができた。また、委員の中から出た疑問点について、学校長に丁寧に答えていただけてよかった。
- これからの時代を生き抜く生徒に必要な資質能力とは何か、学校だけではなく地域・家庭も一緒に育てる必要性を考えることができたことは、大変有益であった。
- 資料に基づく説明だけでなく、先生方の思いをもっと語ってほしい。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 学校が生徒にとっても職員にとっても居心地よく、活気ある場所であるように新しい取り組みを考えていくことは一歩前進であり、協議会の中でもそれぞれの立場から様々な意見を出し、熟議することができた。
- 新しい取り組み・活動も多いため、まず、その活動の目的や意義を十分に理解する必要があるなどの意見が挙げられた。
- 学校から「チャレンジプロジェクト2023」の提案があり、学校としての考えや取り組みを理解した上で、生徒の変容や家庭・地域との連携などについて期待される成果とについて熟議することができた。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 学校の課題やニーズが十分につかめていない状態であるので、地域がどのように動いていけば子供たちの力や可能性を伸ばすことにつながるのか思案中である。教職員の多忙な状況も理解しているので、まずは授業や活動の様子を参観したり、一緒に取り組んだりして方向性を見つけていきたい。
- 学校や子供をとらえる視点が広がるとともに、学校、家庭、地域で一緒に子供を育てる必要性と役割分担が大切だと共通認識を持った。その旨を整理し、家庭や地域へ発信していきたい。
- 学校教育目標に向かって活動を進めていくにあたって、地域としてできることを協議会としてなるべく具体的に提案し、進めていきたい。
- 教職員と別の視点での意見がより貴重である。その意見に対し、学校は弁明するのではなく、丁寧に向き合っていただくことが肝要である。学校運営協議会の意義を今一度認識し、積極的に意見を出していけるよう努めていくべきと考える。